



# 高輪だより

令和8年度6月号  
港区立高輪幼稚園  
園長 佐々木勝世

わくわく ぽかぽか  
みんなえがおの  
たかなわようちえん



## 幼児期の遊び＝学習

園庭の木々の緑が日に日に濃くなり、アジサイの花もきれいに咲きました。アリやダンゴムシ、ときには小さなヘビも出現し、「ともだちいけ」では、メダカが気持ちよさそうに泳いでいます。四季折々の自然やその変化をはっきりとすることができる素晴らしい環境の中で、子どもたちは毎日楽しく遊んでいます。

さて、幼稚園では、「遊びを中心とした総合的な指導」を通して、子どもたちを育てています。幼児期の遊びは、学習であるとも言えます。しかし、「遊び＝学習」と言われても、なかなかピンとこないかもしれません。では、そもそも幼稚園での「遊び」とは、いったいどのようなものなのでしょうか。考え方はいろいろありますが、私の考えをここで紹介します。

遊びとは…主体的な「自己決定」と「問題解決」の繰り返しによる「自己実現」の営み

幼稚園での遊びは、「あなたは今からこれをしなさい」などと、誰かに与えられるものではありません。子どもたちが自分で見付けたら、考えたりして創り出すものです。

何をして遊ぶか、誰と遊ぶか、どこに場をつくるか、何を使うか、どんな方法をとるかなどは、全て自分で選び、決定します。

やりたいと思ったことが、いつもうまくいくわけではありません。作り方が分からない、一緒に遊ぶ友達と意見がぶつかる、でも自分一人だけでは難しいなど、遊びの中では様々な問題に直面します。それらの問題を試行錯誤しながら解決していきます。そして、解決の過程で様々な気づきを得たり、友達と考えを伝え合い、力を合わせることを経験したりします。

そして、あきらめずに自分の思いが実現できたときには、やった！楽しかった！またやりたい！今度はもっとこういうふうにしてみよう！などと、自信と満足感、更なる意欲をもちます。

これらの経験は、小学校以降の学習に向かう姿勢、さらには「人生をどう生きるか」に直結するものであり、まさに「重要な学習」なのです！

園長 佐々木 勝世



地面に落ちたカキの花を拾って遊びに使う3歳児。



園庭でアリやダンゴムシを見つけて観察する4歳児。



糸を巻き取れる釣り竿を試行錯誤して作る5歳児。



砂場で使いたい道具を自分で選んで遊ぶ2歳児。

高輪幼稚園では、子どもたちの生活の様子や、その中にある「学び」について、積極的に発信しています！

【ホームページ】 <https://takanawa-kg.minato-tky.ed.jp>

【X (エックス)】 <https://x.com/takanawakg>



ホームページ



X エックス